

令和8年
2026年

5月20日
水曜日

第11952号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料(前納)
年間 82,080円
(税込み)
6か月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



- ▶ 食肉加工メーカートップインタビュー
エスフーズ 村上真之助代表取締役社長 …… P2
- ▶ [USDA需給予測] 27年食肉生産量年計は1090
億1400万ポンド牛は減少、豚は増加を見込む P3
- ▶ 豚熱発生時の防疫措置に関わる全国説明会選択
的殺処分導入後の防疫措置説明一農水省 …… P4
- ▶ 松屋フーズの26年3月期決算は過去最高益、既
存売上高2桁増 …… P4
- ▶ 居酒屋の倒産が過去最多ペース、1~4月は5割
増—TSR …… P4
- ▶ エバラ食品工業の26年3月期決算は増収増益、
鍋物調味料など好調 …… P5
- ▶ 秋川牧園26年3月期決算は増収、冷凍食品販売
好調 …… P5
- ▶ 豚肉価格が低迷する中、中国主要メディアがそ
の要因を分析 …… P6
- ▶ オオツキ、アブヤサシバエの付着を抑えるシマ
ウマ柄コートを発売 …… P7
- ▶ プレナス「ほっともっと」「やよい軒」「MK
レストラン」で食事補助サービス「チケットレス
トラン」を導入開始 …… P7
- ▶ [資料] 都道府県別枝肉生産量(令和8年3月)
…………… P8~9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]19日 …… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]19日 …… P11

注目のヘッドライン

食肉加工メーカートップインタビュー エスフーズ 村上真之助代表取締役社長

—さらなる販路拡大、海外でのPR積極的に

…詳細はP2

[USDA 需給予測] 27年食肉生産量年 計は1090億1400万ポンド牛は減 少、豚は増加を見込む

…詳細はP3

食の感動体験を創造することで
世界中の人々と食をつなぎ続ける

スターゼン

<https://www.starzen.co.jp/>

エスフーズ

S Foods

<https://www.sfoods.co.jp/>

食肉加工メーカートップインタビュー エスフーズ 村上真之助代表取締役社長

さらなる販路拡大、海外でのPR積極的に
—2025年度の事業環境と加工品部門の業績について教えてください。

25年度においては、依然として燃料や原材料価格が高止まりする中で、消費者の需要が低価格帯商品へシフトし、その結果として豚肉・鶏肉の価格高騰につながりました。さらに人件費や運送費においても引き続き増加したため、収益確保が困難な状況が続きました。

このような状況の下、当社グループは「魅力あるスタミナ食品をもって世界に貢献する」「企業の成長・発展とともに生活・文化の向上を図る」という社是に基づき、お客さまに安全・安心な食肉商品を安定的にお届けすることを優先課題として、事業の継続と発展に努めました。

加工品事業においては、小売店向け食肉製品として、当社が得意とするホルモン商材を中心に、消費者の嗜好に合わせた新製品の投入を積極的に行いました。

特に、小売店・コンビニエンス・ストア向けの総菜製品や冷凍食品において新製品を増やすことができました。

—26年度の事業方針について教えてください。

26年度は物資の値上げが継続し、さらなるインフレの進行が懸念され、事態が長期化すると企業活動や消費行動の低迷につながるが見込まれます。

日本だけでなく世界全体がこれらの事態の動向に左右される経済環境であり、当面は先の見通しが立てにくい状況が続くことが予想されますが、当社グループは引き続き、長年構築してきた食肉関連事業の垂直統合の利点を最大限に生かして、食品の安定供給に努めるとともに、確固とした経営地盤の構築に取り組んでまいります。

—消費者動向をどのように分析しておられますか。

世間的には、良好な所得環境が下支えとなり、経済も緩やかな回復がみられておりますが、物価の上昇により消費者の節約志向は顕著に表れております。

国際情勢の不安定な状態が続くと、消費者もネガティブな材料に敏感に反応することもあり、この傾向は当面継続するものと見込んでおります。



—今後の新製品開発の方向性について。

引き続き、当社が優位性を持つバラエティーミートや、国産牛を原料とした製品の開発・販促に積極的に取り組みます。ご当地の味や新味の追求、キャラクターや有名店とのコラボレーション商品の企画により、女性や若者の認知度を上げる取り組みを行います。また、「こてっちゃーはん」をはじめとする冷凍食品の販売強化などにより、さらなる販路の拡大を図ります。

—海外での影響と対応について。

今後の販売強化を見据え、引き続き事業・拠点の整備のための投資を継続いたします。米国では、当初計画より遅れはしたものの、オーロラビーフの新工場を本年度に稼働させ、供給能力の増強を図ります。

また、海外への輸出拡大の対応として、必要となる国内拠点の構築を進めるだけでなく、米国をはじめとした海外でのPR活動についても積極的に対応していく予定です。

—その他(SDGs対応、新市場開拓への取り組みなど)

経営品質の向上について、引き続き重要なステークホルダーへの着実な還元を進めていきます。株主への配当につきましては、連結の株主資本配当率(DOE)3%をメドに安定的な利益還元を目指します。

また、従業員の満足度を高めるために、一昨年から健康経営の推進に取り組んだ結果、26年3月に健康経営優良法人(大規模法人部門)の認定を取得いたしました。今後もその流れを継続し、従業員がより働きやすくなるように環境整備を行います。

[USDA 需給予測] 27年食肉生産量年計は1090億1400万ポンド 牛は減少、豚は増加を見込む

米国農務省(USDA)は現地時間18日、食肉などの需給予測(表参照)を発表した。それによると、2027年の食肉生産量は1090億1400万ポンド(前年比0.5%増)、第1四半期も前年同期から0.3%増加すると見込んでいる。26年の生産量は、各四半期で前期を上回ると見込まれることから、前月から1億1500万ポンド上方修正され1084億3600万ポンド(1.2%増)となった。

食肉別にみると、牛肉の26年生産予測は、牛のと畜ペースが鈍化すると予想されるため、前月から2億4300万ポンド下方修正され、255億4700万ポンドとなった。27年の生産量は253億1千万ポンド(0.9%減)と予測している。先月から、26年の牛価格は最新の価格データに基づいて引き上げられ、供給量が限られているため、来年の価格は過去最高値に達すると予測している。26年の輸出量は第1四半期が下方修正され、23億6100万ポンド(8.4%減)、輸入量は各

四半期で上方修正され、61億900万ポンド(11.7%増)と予測。27年の輸出量は生産量が減少すると予測されることから23億3500万ポンド(1.1%減)を見込んでいる。

豚肉の27年生産予測は282億5500万ポンド(1.0%増)。26年は第1～2四半期が下方修正されたが第4四半期が上方修正され279億8500万ポンド(1.5%増)となった。豚肉輸出量は26年が72億3200万ポンドに上方修正され、27年はそれを上回る73億3千万ポンド(1.4%増)が予想されている。26年と同様に、27年も西半球諸国が米国の豚肉輸出に占める割合は増加するとみられている。

鶏肉(ブロイラー)の26年生産量は、ふ化および飼育場のデータを反映し上期は上方修正され491億4600ポンド(2.4%増)と予測。輸出量は26年にわずかに上方修正され、27年には65億7500万ポンド(0.4%減)と減少すると予測している。

米国の食肉需給予測(5月18日現地公表)

		25年	1～3月	26年予測	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	27年予測	1～3月
生産量	牛肉	26,003	6,544	25,547	6,147	6,280	6,485	6,635	25,310	6,045
	(前年比)	96.4%	99.8%	98.2%	93.9%	97.3%	102.0%	99.8%	99.1%	98.3%
	豚肉	27,578	6,956	27,985	7,050	6,775	6,750	7,410	28,255	7,095
	(前年比)	99.2%	98.1%	101.5%	101.4%	101.0%	102.1%	101.5%	101.0%	100.6%
	ブロイラー	48,006	11,571	49,146	11,996	12,250	12,600	12,300	49,600	12,100
	(前年比)	102.2%	101.2%	102.4%	103.7%	103.1%	101.4%	101.5%	100.9%	100.9%
	羊肉	135	34	131	33	32	33	33	132	33
	ターキー	4,844	1,146	5,055	1,225	1,240	1,290	1,300	5,140	1,250
合計	107,099	26,377	108,436	26,592	26,722	27,304	27,819	109,014	26,663	
(前年比)	99.5%	99.4%	101.2%	100.8%	101.3%	101.6%	101.3%	100.5%	100.3%	
市場価格	チョイス去勢牛	224.37	205.02	249.66	238.65	253.00	252.00	255.00	253.75	250.00
	(前年比)	119.9%	113.3%	111.3%	116.4%	112.3%	105.2%	112.0%	101.6%	104.8%
	生体豚	68.80	63.59	68.38	64.50	71.00	74.00	64.00	66.50	63.00
	(前年比)	108.5%	110.2%	99.4%	101.4%	101.9%	96.0%	98.7%	97.3%	97.7%
	ブロイラー	124.8	130.8	121.9	119.5	122.0	123.0	123.0	124.0	120.0
(前年比)	96.4%	102.2%	97.7%	91.4%	89.8%	100.9%	111.3%	101.7%	100.4%	
ターキー	135.8	94.8	160.0	169.9	170.0	150.0	150.0	130.0	130.0	
輸出入量	牛肉輸出	2,577	713	2,361	586	620	575	580	2,335	575
	(前年比)	85.7%	97.1%	91.6%	82.2%	90.8%	98.8%	96.8%	98.9%	98.1%
	牛肉輸入	5,471	1,482	6,109	1,709	1,625	1,425	1,350	6,000	1,675
	(前年比)	118.0%	124.0%	111.7%	115.3%	111.1%	114.1%	105.7%	98.2%	98.0%
	豚肉輸出	6,970	1,783	7,232	1,842	1,790	1,685	1,915	7,330	1,860
	(前年比)	97.8%	98.9%	103.8%	103.3%	105.4%	102.7%	103.6%	101.4%	101.0%
	豚肉輸入	1,116	280	1,138	278	285	280	295	1,175	290
	(前年比)	97.2%	94.0%	102.0%	99.3%	103.6%	105.3%	100.3%	103.3%	104.3%
	生体豚輸入	6,990	1,774	7,290	1,885	1,790	1,775	1,840	7,400	1,925
	(前年比)	103.4%	101.5%	104.3%	106.3%	107.0%	104.0%	100.2%	101.5%	102.1%
	ブロイラー輸出	6,672	1,628	6,599	1,639	1,575	1,645	1,740	6,575	1,630
	(前年比)	99.9%	95.8%	98.9%	100.7%	99.7%	98.3%	97.1%	99.6%	99.5%
ターキー輸出	425	95	429	114	95	105	115	415	100	
(前年比)	87.4%	87.2%	100.9%	120.0%	97.9%	95.5%	93.5%	96.7%	87.7%	

単位:量は百万ポンド、価格は牛・豚は百ポンド当たりドル、家禽はポンド当たりセント

豚熱発生時の防疫措置に関わる全国説明会 選択的殺処分導入後の防疫措置説明—農水省

農水省は19日、豚熱発生時の防疫措置に関わる全国説明会を開催し、家畜伝染病予防法改正に伴う殺処分範囲の見直しについて関係者へ説明の場を設けた。冒頭、木下雅由審議官は「15日に家伝法の一部を改正する法律が国会での審議を経て可決成立され、本日公布されることとなっている。豚熱発生時の殺処分の範囲の見直しに関わる規定については、公布日に即日施行されるということで防疫指針の改正なども併せて行うこととなる。これにより、北海道を除く都府県では、これまで行ってきた全頭殺処分ではな

く、まん延防止に必要な豚のみを殺処分する選択的殺処分が実施される。野生猪における豚熱は九州まで確認されている現状においては、飼養豚でいつ発生してもおかしくない状況が続いている。このため、農水省では今回の法改正により発生時の防疫措置がどう変わるか、可能な限り早急に関係者に説明するためにこの説明会を開催することとなった。今後ブロック別にも順次説明会を行っていきたい」と述べた。(概要は後日掲載)

松屋フーズの26年3月期決算は過去最高益、既存売上高2桁増

松屋フーズHDは15日、2026年3月期決算を発表した。それによると、売上高1844億7400万円(前期比19・6%増)、営業利益75億9400万円(72・3%増)、経常利益83億4500万円(62・1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は37億7200万円(72・6%増)の、過去最高益となった。

売上高については、既存店売り上げが前期から10・5%増加したことに加え、前年度以降、牛めし業態8店舗、トンカツ業態8店舗など合計104店舗を出店。また、(株)松富士、(株)松富士食品の連結子会社化により、ラーメン業態121店舗が増加したことなどによ

る売上増加分が寄与している。同社が重視すべき指標と認識しているFLコスト(売上原価と人件費の合計、FOODとLABORにかかるコスト)の売上高比は、前期の66・9%から66・4%と改善した。国内直営店の牛めし定食事業売上高は1441億7979万円(20・1%増)、トンカツ事業売上高は234億5795万円(13・8%増)。

次期売上高は2150億円(16・5%増)、営業利益82億円(8・0%増)、経常利益84億円(0・7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は38億円(0・7%増)を見込んでいる。

居酒屋の倒産が過去最多ペース、1～4月は5割増—TSR

東京商工リサーチ(TSR)は17日、企業データベースから「居酒屋」倒産(負債1千万円以上)を抽出、分析結果を公表した。それによると、1～4月の「居酒屋」倒産は88件(前年同期比54・3%増)と急増。1989年以降、同期間の最多であった2024年の59件を上回った。

客層が幅広い居酒屋の景気は、世間の動向を映す鏡でもある。コロナ禍は、休業協力金や各種の資金繰り支援効果が広がり倒産は抑制された。しかし、コロ

ナ禍が落ち着くと、食材や光熱費、人件費の上昇に加え、焼き肉店など専門料理店との競合、デリバリーの普及が重なり、居酒屋の倒産は増勢に転じた。また、値上げが相次ぎ、居酒屋の売り(魅力)だった5千円以下の飲み放題コースが減ると、財布のひもが一気に固くなった。宅飲みなど予算を抑える生活防衛策が広がり、「居酒屋」の苦境にますます拍車をかけている。

エバラ食品工業の26年3月期決算は増収増益、鍋物調味料など好調

調味料メーカーのエバラ食品工業(本社=横浜市、森村剛士社長)の2026年3月期決算は売上高が前期比4.3%増の500億500万円、営業利益は18.4%増の24億400万円で増収増益となった。経常利益は26.7%増の26億7600万円となった。

家庭用商品の売上高は308億6600万円(4.9%増)となった。このうち、肉まわり調味料群の売上高は121億4900万円(1.5%減)となった。精肉価格の高止まりの影響により、前期の売り上げを下回った。鍋物調味料群の売上高は116億5600万円(8.1%増)となった。「プチッと鍋」「なべしゃぶ」の販売施策により店頭での露出が強化されたことにより、前期の売り上げを上回った。

野菜まわり調味料群の売上高は26億4600万円(3.7%増)となった。「浅漬けの素」が野菜価格の安定などを背景に売り上げを伸ばした結果、前期の売り上げを上回った。

その他群の売上高は44億1300万円(17.6%増)となった。「プチッとうどん」「プチッと中華」は、商品ラインアップの追加により好調に推移した。また、「横濱

舶来亭カレーフレーク」も売り上げを伸ばした。

業務用商品の売上高は115億4500万円(5.5%増)となった。このうち、肉まわり調味料群の売上高は32億6400万円(1.3%減)となった。

スープ群の売上高は36億8千万円(10.4%増)となった。その他群の売上高は46億円(6.9%増)となった。丸二(株)の売上高が、年間を通じ寄与した。

次期においては、国際情勢の影響などによる物価上昇が継続し、消費者の節約意識が一層高まるものと見込まれる。引き続き原材料やエネルギー価格のさらなる上昇が想定されている。次期の連結業績見通しについては、ポーション調味料の売上拡大や海外事業の販路拡充により、全体としては売上高502億円(前期比0.4%増)を見込む。利益面については、上記に記載した各種コストの上昇に加え、国内製造体制の再編に伴う費用の影響を考慮し、営業利益15億円(37.6%減)、経常利益17億円(36.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益10億円(43.9%減)となる見込み。

秋川牧園 26年3月期決算は増収、冷凍食品販売好調

秋川牧園は15日、2026年3月期決算を発表した。それによると、売上高は82億8300万円(前期比4.1%増)、営業利益は1億4300万円(前期は300万円の営業損失)、経常利益は1億8600万円(前期比262.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は2100万円(22.6%減)と増収、経常は増益となった。セグメント別業績は次の通り。

生産卸売事業の売上高は66億2200万円(5.7%増)、営業利益は5億5800万円(35.5%増)。相対的に割安感のある鶏肉への需要が高まる中、冷凍加工食品を中心に販売が好調に推移したことに加え、製品の価格改定の効果もあり、売上高は増加した。利益面も、原材料や包材などのコスト上昇や人件費の増加の影響を受けたものの、販売拡大および価格改定効果に加え、冷凍食品工場、ミート工場における生産

性向上が寄与し増益となった。

直販事業の売上高は、16億6千万円(1.8%減)、営業利益は3500万円(18.0%増)となった。

中期経営計画における目標は、直販事業および中国子会社における販売が計画を下回って推移していることから、全体の目標を下回る見込み。

次期は、販売拡大や製品の値上げ、全社的に推進する生産性向上施策の効果を見込む一方、人件費の上昇や飼料を中心とした原材料価格の高騰に加え、中東情勢の影響による包材などのコスト上昇等、先行き不透明な事業環境が続くことが想定されることから、売上高86億1500万円(前期比4.0%増)、経常利益1億3千万円(30.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益8千万円(266.9%増)を見込んでいる。

豚肉価格が低迷する中、中国主要メディアがその要因を分析

中国で豚肉価格の下落傾向が止まらない。2026年4月に入り、生体豚の平均価格がキロ当たり8・7円と、この14年間の最低価格を更新した。養豚農家は豚1頭を出荷するごとに423元の赤字になっているという。中国養豚業界のメディア「中国豚業」は同月19日、「豚肉価格は26年第2四半期には下げ止まり、下半期には需給バランスが改善するとの期待が持てる」としつつ、価格低迷が続く主な理由について、以下の見方を紹介した。

中国の母豚1頭当たりの年間離乳子豚数(PSY)は20年の16・1頭から26年には26・3頭と、6年間で6割も向上した。巨大養豚企業の例をみれば、巨星農牧はすでに30頭を超え、牧原股份はおおむね28頭で推移している。母豚の飼育頭数を減らしても出荷頭数は期待したほど減少しないため、供給過多が解消されず、豚肉価格も下げ止まらない。

かつては小規模な養豚場が多く、過剰生産に伴う価格低迷への対応は飼育頭数の削減によって行われ、その削減は実際には小規模な養豚場の閉鎖や倒産によって実現されていた。しかしながら、養豚の大規模化が進み、1企業の飼育する頭数が増えて経営規模が大きくなった結果、豚肉価格が低迷しても飼育頭数や養豚場数が削減されるようなことはなくなった。これは、飼育規模の大きい養豚企業が、飼育頭数を削減して赤字を抑制するのではなく、あらゆる手段を講じて、例えば飼育期間や出荷体重を調整するなど、飼育頭数の削減以外の手段によって出荷総量を抑制するようになったためである。同時に、大規模企業は豚肉の先物取引を利用することで、豚肉価格の低迷が財務諸表に与える影響を緩和させるという「高額な保険」を活用し、価格低迷が経営にもたらす影響を最低限に抑えている。年間出荷頭数が100万頭を超える32企業のうち豚肉の先物取引を利用している企業数は実に24に上る。このように、大規模企業が中心となった養豚業界は、零細飼育農家が多かった昔とは異なり、現物豚肉価格が短期的に下落した結果、恐怖心から飼育頭数を削減してしまう、というような反応を示さなくなった。かつて中国国民にとって食肉といえば豚肉であり、18年には食肉消費に占める

割合が統計を取り始めて以降最も高い62%を占めるに至ったが、25年にはその割合が58%にまで減少した。1人当たり豚肉消費量(家庭内消費)も23年に過去最高の30・5kgを記録した後、24年には28・1kg、25年には26・6kgと2年連続で減少した。これは、相対的に家禽肉が安価であることや牛肉・羊肉の品質向上に対する消費者認知が進んだことで、豚肉からこれらの食肉への代替が進んだ結果でもあるが、より本質的な理由は、国民の消費傾向が過去にない速さで変化し、食において「低脂肪、高タンパク質、調理が簡便」なことが重要になった結果、豚肉は焼き豚のように「高脂肪で手間が掛かる」食材だと認識されるようになったためである。以上のような理由から、豚肉価格は低迷し続けている。専門家によれば、豚肉価格は供給量変化の影響を受けやすく、供給量が1%変われば市場価格が5%も変動するという。生産過剰であるからといって生産を過度に抑制した場合、仮に供給が1%でも不足すれば、豚肉価格はすぐに5%も上昇し、購買に影響を与えてしまう。

このようにかじ取りが難しい中、中国政府の反応は早く、今年3月、4月にはそれぞれ1万tにおよぶ備蓄用冷凍豚肉の買い入れと放出といった手段を講じることを発表した。また、中国農業農村部は3月3日、養豚企業を集めた会合を開催し、繁殖雌豚頭数目標を現行の3900万頭からさらに引き下げて3650万頭とする方向性について言及した。政府の方針は従来の「ソフトな誘導」策から「ハードな強制」策に移行したといえるだろう。現在、業界全体で生産調整はうまく進んでいないが、価格低迷が続くことで生産効率の悪い養豚場はやがて淘汰され、間もなく底がみえるだろう、というのが専門家の比較的一致した見方である。なお、中国農業農村部は4月28日、「生体豚観測予報専門家諮問委員会」の設立大会を開催した。同部公表情報によれば同委員会の設立目的は、養豚産業における需給関係が大きく変化しているため生産調整を十分に強化する必要があり、業界の知見を集め、市場動向の分析と早期予測とを強力かつ効果的に行うことにあるとされている。(農畜産業振興機構)

オオツキ、アブやサシバエの付着を抑えるシマウマ柄コートを発売

牛用グッズブランド「USIMO(ウシモ)」を展開する(株)オオツキは、親牛・子牛向けのサシバエ対策商品「モーっとしま牛コート」のテスト販売を数量限定・直販限定で開始した。牛をシマウマ柄にすることで、アブやサシバエなど吸血昆虫の付着を抑える効果が期待されており、近年は国内外で研究や実験が進められている。

シマウマのしま模様は虫の視覚を混乱させ、着地しにくくしたり距離感を狂わせたりするとされる。実際に牛へ白黒のしま模様を施した実験では、虫の付着数が減少したとの研究結果も報告されている。また、虫の付着が減ることで、牛が尾を激しく振る、足踏みを繰り返すなどのイライラ行動が減少し、ストレス軽減につながる可能性もあるという。

夏場の畜産現場では、アブ、サシバエ、ヌカカ、蚊など吸血昆虫による被害が大きな課題となっている。吸血時の痛みや不快感から牛は落ち着きを失い、採食量の低下や休息不足を招く。肉牛では増体成績の悪化、乳牛では乳量低下につながるなど、生産性への影響も大きい。さらに、暑熱ストレスとの重複による体力消耗や熱中症リスク、感染症媒介への懸念もあり、防虫対策と暑熱対策を同時に行う取り組みへの関心が高まっている。

同社は、防寒コート開発で培ったノウハウを活用

し、岡山県農林水産総合センター畜産研究所と共同研究を重ねながら、吸血昆虫から牛を守る製品開発を進めてきた。今回発売した「モーっとしま牛コート」もその一環で、サシバエ対策への効果を見込む。しま模様を活用した防虫技術は薬剤に頼り過ぎない対策としても注目されており、畜産現場での省力化や牛の健康維持への貢献も期待される。また、牛への負担軽減を図りながら飼養環境改善につなげる資材として、導入効果の検証を進めていく考えだ。

USIMOは2019年、作業服を納品していた畜産農家からの要望を受け、子牛向け防寒グッズを独自開発するプロジェクトとしてスタートした。これまでに電熱線入りネックウォーマー、蓄熱マフラー、点滴保温器、高機能素材の防寒コート、シマウマ柄コート、接触冷感ネッククーラーなどを開発。昨年からは牛だけでなく、動物全般向けの暑熱対策商品の開発にも取り組んでいる。

プレナス「ほっともっと」「やよい軒」「MK レストラン」で 食事補助サービス「チケットレストラン」を導入開始

(株)プレナス(東京都中央区、金子史朗社長)は、持ち帰り弁当の「ほっともっと」、定食レストランの「やよい軒」、しゃぶしゃぶと本格飲茶の「MKレストラン」、そしてラーメン店の「KAYAVA.」を、2026年4月末現在、国内で2822店舗展開している。

同社は、同3ブランド全店舗で11日から、(株)エデンレッドジャパン(東京都港区、天野総太郎社長)が提供する、食事補助用途で従業員に発行されるカード「Ticket Restaurant®(以下、チケットレストラン)」の取り扱いを開始することを発表した。

同サービスは、レストラン、カフェ、コンビニエンス・ストアなどを「社員食堂」のように利用できる、食の福利厚生サービス。加盟店で食事や飲食物の購入ができるICカードタイプの食事補助サービスで、導入実績は4千社以上、利用者数は30万人以上に達するなど、国内最大規模の食事補助ソリューションとして広く利用されている。ICカード「チケットレストラン」は、(株)NTTドコモが運営する電子マネー「iD(アイディー)」の端末にかざすだけで利用可能となっている。

[資料] 都道府県別枝肉生産量 (令和8年3月)

年次・ 都道府県	豚	牛計	成牛								
			計	和牛			乳牛				
				小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢	
全国 (1)	111,724.3	41,082.3	41,047.2	21,092.8	9,160.1	11,916.1	16.6	8,484.0	4,613.5	3,868.0	
北海道 (2)	9,819.7	8,175.7	8,158.6	793.0	318.2	473.9	0.9	5,283.8	2,458.9	2,823.4	
青森 (3)	7,158.4	1,188.8	1,188.7	401.6	161.8	239.8	-	281.1	31.3	249.8	
岩手 (4)	2,604.3	611.4	611.2	437.9	214.1	222.5	1.3	52.0	48.0	4.0	
宮城 (5)	2,501.3	700.1	699.8	542.5	219.8	322.2	0.4	88.4	84.5	4.0	
秋田 (6)	2,140.7	143.1	143.1	124.6	38.6	86.1	-	2.2	-	2.2	
山形 (7)	2,586.8	634.1	634.1	515.0	426.4	88.2	0.4	14.8	14.8	-	
福島 (8)	1,479.9	108.7	108.6	91.9	47.9	44.1	-	9.7	8.4	1.3	
茨城 (9)	7,613.9	1,766.0	1,757.7	617.9	261.9	351.6	4.4	446.0	395.9	50.1	
栃木 (10)	2,744.7	406.0	404.7	129.8	64.7	65.1	-	113.1	98.7	14.5	
群馬 (11)	4,528.2	624.6	624.5	176.1	41.2	134.9	-	28.8	7.7	21.1	
埼玉 (12)	3,855.6	1,130.4	1,130.3	315.4	133.8	181.6	-	306.0	282.7	23.3	
千葉 (13)	6,117.9	835.2	832.4	113.5	67.4	46.2	-	208.7	160.2	47.9	
東京 (14)	1,485.5	3,756.9	3,756.9	2,848.6	1,131.5	1,717.1	-	17.8	0.6	17.1	
神奈川 (15)	3,745.1	664.4	664.1	324.4	156.4	167.9	-	42.1	34.2	7.9	
新潟 (16)	2,951.4	105.1	104.5	56.9	12.9	44.1	-	10.7	10.6	-	
富山 (17)	649.6	52.0	52.0	27.3	11.1	16.3	-	0.9	-	0.9	
石川 (18)	186.3	176.3	176.2	77.3	27.5	49.9	-	32.4	24.5	7.9	
福井 (19)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨 (20)	262.5	211.9	211.7	118.5	69.1	49.3	-	37.1	37.1	-	
長野 (21)	796.5	181.6	181.6	89.8	33.7	56.2	-	24.1	23.2	0.9	
岐阜 (22)	692.3	592.1	591.9	441.6	115.7	325.9	-	56.5	56.1	0.4	
静岡 (23)	1,233.9	264.7	264.5	85.7	62.0	23.6	-	22.2	22.2	-	
愛知 (24)	3,860.8	677.9	677.5	172.3	81.5	90.8	-	51.6	23.5	28.1	
三重 (25)	1,170.4	286.5	286.5	232.9	225.6	7.3	-	30.2	28.0	2.2	
滋賀 (26)	-	358.4	358.4	291.1	217.6	73.5	-	0.3	0.3	-	
京都 (27)	135.3	496.4	496.4	407.1	220.3	186.8	-	2.9	2.9	-	
大阪 (28)	135.6	802.6	802.6	369.4	154.2	215.2	-	88.9	4.2	84.7	
兵庫 (29)	674.9	2,673.6	2,672.8	2,007.0	1,133.7	870.6	2.6	205.7	123.8	81.7	
奈良 (30)	67.9	97.8	97.8	37.3	28.4	8.9	-	44.2	28.4	15.8	
和歌山 (31)	-	11.9	11.9	5.9	4.9	1.0	-	-	-	-	
鳥取 (32)	470.8	155.7	155.7	54.4	20.8	33.6	-	81.9	26.1	55.8	
島根 (33)	517.9	133.2	133.2	84.0	39.0	44.6	0.4	20.0	18.7	1.3	
岡山 (34)	523.6	248.7	248.7	72.4	31.5	40.9	-	104.1	69.0	35.1	
広島 (35)	576.9	658.4	658.0	179.3	74.9	104.4	-	147.3	99.0	48.3	
山口 (36)	-	60.6	60.6	16.2	12.0	4.2	-	14.9	12.3	2.6	
徳島 (37)	1,500.9	316.1	316.1	132.1	63.4	68.7	-	10.1	9.7	0.4	
香川 (38)	1,058.5	843.5	843.5	228.1	75.3	152.7	-	89.0	21.0	68.1	
愛媛 (39)	1,134.9	89.0	89.0	47.0	23.9	23.1	-	17.0	3.9	13.2	
高知 (40)	693.2	109.5	109.5	54.2	22.2	32.0	-	5.5	5.5	-	
福岡 (41)	1,460.0	1,925.0	1,925.0	1,350.9	598.3	752.6	-	87.0	58.0	29.0	
佐賀 (42)	501.6	223.8	223.8	216.4	70.0	146.4	-	3.9	3.9	-	
長崎 (43)	3,975.4	711.0	710.9	459.5	185.3	272.9	1.3	107.8	44.2	63.7	
熊本 (44)	1,132.8	1,428.7	1,428.3	979.8	373.2	604.0	2.6	155.9	148.3	7.5	
大分 (45)	1,041.1	286.2	286.1	221.4	88.6	132.8	-	11.2	6.8	4.4	
宮崎 (46)	6,695.6	2,121.4	2,121.0	1,471.1	545.1	924.7	1.3	68.9	20.6	48.3	
鹿児島 (47)	17,210.0	3,862.6	3,862.2	3,508.9	1,196.6	2,312.3	-	50.0	48.7	1.3	
沖縄 (48)	2,031.6	174.6	174.6	164.4	58.1	105.5	0.9	7.1	7.1	-	

資料:農林水産省「畜産物流通統計」

(単位 : t)

乳牛	成牛								子牛	馬	枝肉生産量
	交雑牛				その他の牛						
雄	小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢	雄			
2.5	11,445.2	5,094.5	6,348.2	2.5	25.2	6.2	16.5	2.6	35.1	332.7	153,139.2
1.4	2,067.0	805.5	1,261.5	-	14.8	2.2	12.6	-	17.1	1.7	17,997.1
-	506.0	207.3	298.7	-	-	-	-	-	0.1	30.6	8,377.8
-	121.0	34.6	86.4	-	0.4	0.4	-	-	0.2	-	3,215.7
-	68.1	25.7	42.3	-	0.8	0.4	0.5	-	0.2	-	3,201.4
-	16.3	7.9	8.4	-	-	-	-	-	-	4.6	2,288.4
-	104.3	34.1	70.2	-	-	-	-	-	-	8.4	3,229.3
-	6.9	6.9	-	-	-	-	-	-	0.1	73.0	1,661.5
-	693.4	254.3	439.1	-	0.4	0.4	-	-	8.3	0.8	9,380.7
-	161.8	47.0	114.8	-	-	-	-	-	1.2	-	3,150.6
-	419.6	256.3	163.3	-	-	-	-	-	0.1	-	5,152.7
-	508.8	202.4	306.5	-	-	-	-	-	0.2	-	4,986.0
0.6	510.2	284.5	225.7	-	-	-	-	-	2.8	-	6,953.2
-	890.5	467.6	422.9	-	-	-	-	-	-	-	5,242.4
-	297.6	171.7	125.9	-	-	-	-	-	0.3	-	4,409.5
0.1	36.8	12.9	24.0	-	-	-	-	-	0.7	-	3,056.5
-	23.3	9.4	13.9	-	0.5	-	0.5	-	-	-	701.7
-	66.4	56.4	10.0	-	-	-	-	-	0.1	-	362.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	56.2	53.9	2.2	-	-	-	-	-	0.2	21.8	496.2
-	67.7	19.8	47.9	-	-	-	-	-	-	0.8	979.0
-	93.8	20.8	73.0	-	-	-	-	-	0.2	2.9	1,287.3
-	156.6	75.2	81.4	-	-	-	-	-	0.2	-	1,498.6
-	453.5	230.1	223.4	-	-	-	-	-	0.4	-	4,538.7
-	23.3	18.3	5.0	-	-	-	-	-	-	-	1,456.9
-	67.0	16.8	50.1	-	-	-	-	-	-	-	358.4
-	86.4	65.8	20.6	-	-	-	-	-	-	-	631.8
-	344.2	124.7	219.5	-	-	-	-	-	-	-	938.1
0.2	458.8	293.9	164.9	-	1.3	0.4	1.0	-	0.7	-	3,348.5
-	16.3	11.9	4.5	-	-	-	-	-	-	0.4	166.1
-	5.9	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	11.9
-	19.4	13.9	5.6	-	-	-	-	-	-	-	626.5
-	29.2	7.4	21.7	-	-	-	-	-	-	-	651.2
-	72.2	37.6	34.5	-	-	-	-	-	-	-	772.3
-	331.4	173.2	158.2	-	-	-	-	-	0.3	-	1,235.2
-	29.6	26.2	3.3	-	-	-	-	-	-	-	60.6
-	173.9	8.4	165.5	-	-	-	-	-	-	2.5	1,819.5
-	526.4	226.6	299.8	-	-	-	-	-	-	-	1,902.0
-	24.9	9.9	15.0	-	-	-	-	-	-	-	1,223.9
-	49.8	6.9	42.9	-	-	-	-	-	-	2.9	805.7
-	486.3	168.2	317.6	0.5	0.7	0.7	-	-	0.1	47.8	3,432.9
-	3.5	3.5	-	-	-	-	-	-	-	-	725.4
-	143.3	86.6	55.2	1.5	0.4	0.4	-	-	0.1	-	4,686.4
0.1	290.9	92.0	198.4	0.5	1.7	0.4	-	1.3	0.4	133.4	2,695.0
-	53.5	35.1	18.4	-	-	-	-	-	0.1	-	1,327.3
-	578.7	262.7	315.9	-	2.2	0.4	1.5	0.4	0.4	0.4	8,817.4
-	303.3	113.3	190.0	-	-	-	-	-	0.4	-	21,072.7
-	1.0	1.0	-	-	2.1	0.7	0.5	0.9	-	0.4	2,206.6

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 5月19日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,244	2,690	-	-	-
		安値	2,539	2,284	-	-	-
		平均	2,761	2,536	2,439	-	-
		頭数	78	16	1	-	-
		95頭					
	雌 B	高値	2,824	-	-	-	-
		安値	2,170	-	-	-	-
		平均	2,513	-	-	-	-
		頭数	2	-	-	-	-
		2頭					
	去 A	高値	3,231	2,667	2,517	-	-
		安値	2,557	2,377	2,418	-	-
平均		2,744	2,563	2,485	-	-	
頭数		133	27	6	-	-	
166頭							
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
	-頭						
乳牛	雌 B 2頭	平均	-	-	-	1,354	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	1,977	1,914	1,841	1,772	
		頭数	1	6	5	10	
	雌 C	平均	-	-	1,698	1,707	
		頭数	-	-	1	1	
	去 B	平均	-	1,919	1,889	1,815	
		頭数	-	5	10	13	
去 C	平均	-	-	-	1,753		
頭数	-	-	-	3			

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	428 429	863 979	- 70.5	(競り)	(相対)	
				-	10	68

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,537	2,165	1,840	1,735	-
	B	-	1,908	1,816	1,510	1,543
和 去	A	2,722	2,559	2,451	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	1,268	1,199
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	-	1,854	1,514	-
	C	-	-	-	-	-
交 去	B	-	-	1,854	-	-
	C	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	676	882	853	643	575
	安値	600	572	529	474	410
	平均	628	617	601	557	490
	頭数	(9)	(449)	(307)	(105)	(109)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	513
頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(10)	

[大阪食肉卸売市場] 5月19日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,683	2,483	-	-	-
(頭数)	(31)	(13)	(-)	(-)	(-)
B	-	2,377	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,685	2,525	2,377	-	-
(頭数)	(19)	(8)	(1)	(-)	(-)
B	-	2,370	-	-	-
(頭数)	(1)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,828	1,833	1,751	-
C	-	1,776	1,805	-	-
交雑去 B	-	1,889	1,830	1,769	-
C	-	-	-	1,743	-
豚	-	1,173	741	611	484

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	5月19日	5月18日	(5月累計)
豚	64,200	63,800	705,900
成牛計	4,610	4,640	42,780
和牛雌	1,300	1,020	10,850
和牛去勢	1,170	1,350	11,780
乳牛雌	640	450	5,620
乳牛去勢	460	520	4,670
交雑雌	540	650	4,940
交雑去	500	650	4,920

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 5月19日

東京	1,845 円	(前日 1,790 円)
大阪	1,809 円	(前日 1,822 円)

[豚・全農建値] 5月19日

上	中	取引頭数	市況
607 円	587 円	957 頭	急落

と畜 売買	牛 40 頭 牛 103 頭	豚 116 頭 豚 95 頭	牛概況 豚概況	もちあい 急伸
----------	-------------------	-------------------	------------	------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 5月19日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	724 (724)	- (-)	5,898	-	もちあい
仙台 [中]	595 (646)	571 (588)	335	70	軟調
栃木 [地]	- (625)	- (586)	-	-	-
茨城 [地]	630 (655)	594 (627)	1,201	509	続落
群馬 [地]	602 (581)	540 (507)	1,799	241	反発
さいたま [中]	590 (596)	574 (588)	278	282	続落
東京 [中]	617 (602)	601 (571)	863	979	反発
横浜 [中]	615 (662)	587 (619)	670	670	続落
山梨 [地]	741 (-)	720 (-)	133	84	まちまち
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	-
名古屋 [中]	667 (736)	660 (704)	846	276	続落
京都 [中]	761 (711)	746 (701)	94	97	もちあい
大阪 [中]	1,173 (743)	741 (700)	116	83	急伸
神戸 [中]	748 (-)	746 (-)	-	143	-
岡山 [地]	708 (723)	699 (723)	343	239	-
広島 [中]	669 (705)	628 (667)	348	52	急落
福岡 [中]	696 (705)	656 (664)	465	121	続落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 5月12日～5月18日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,502,086 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,231	1,364	1,419	1,353	71,325
うで	864	883	980	899	129,700
ロース	1,207	1,338	1,409	1,334	161,349
ばら	1,350	1,423	1,511	1,415	135,649
もも	848	902	967	907	156,553
ヒレ	1,253	1,350	1,415	1,333	12,781
セット	1,102	1,129	1,252	1,151	834,729

◇近畿圏 総重量 689,188 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,339	1,512	1,566	1,489	54,829
うで	821	864	879	860	115,084
ロース	1,242	1,344	1,400	1,332	91,040
ばら	1,393	1,458	1,502	1,454	116,809
もも	849	872	918	877	155,576
ヒレ	1,260	1,404	1,512	1,392	10,251
セット	1,034	1,197	1,254	1,174	145,599

[食鳥正肉日経相場] 5月18日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	784	839	1,004	172
ムネ	437	477	661	184

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	781	862	1,050	3
ムネ	445	516	610	2

[農水省統計情報部食鳥市況] 5月18日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	1,031	702	550	600	650
安値	785	456	290	360	350
平均	847	494	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間中(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

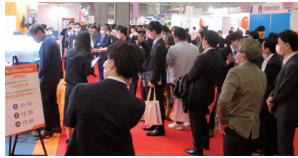
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510
TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928
TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡 晃 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します